

光村ポケット

中学校 道徳

vol.3

道徳科授業の キホン

- 
- ① 教材を読んで「？」を見つける
 - ② 生徒の発言をそのまま受け止める
 - ③ 「教える」のではなく
「いっしょに考える」



光村図書

LINE公式アカウント友だち募集中!



授業づくりに役立つ情報を、
いち早くお届けします。



教授用資料

本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。



道徳科授業のキホン

「道徳の授業って、何が正しいかを話し合えばいいの?」「授業が淡々としてしまって、生徒も退屈そう……」「ねらいに迫れた実感がもてない……」
そんな悩みを解決するためには、どのような糸口があるのでしょうか。

今回お話を伺った先生

岩手県盛岡市立厨川中学校

指導教諭

おいかわひとみ
及川仁美先生



1

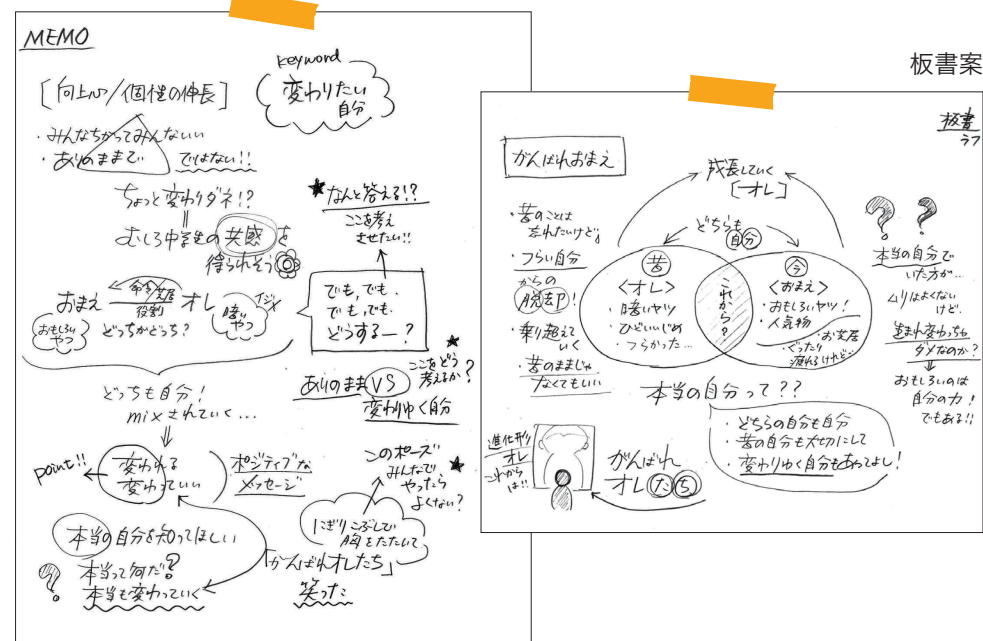
教材を読んで 「?」を見つける

私は、授業を構想するとき、いきなり指導書を読むのではなく、まずは教材にじっくりと目を通しています。概要を確認したり、必要に応じて、インターネット等で調べたり。そうする中で、自分の頭に浮かんだ「?」を大切にします。生徒が教材に出会ったとき、きっと彼らも同じように感じるからです。

自分の疑問や気になるところを軸に授業を組み立てると、生徒の頭にも問いが生まれます。例えば、導入で、構想時に浮かんだ「?」を生徒に投げかけることで、生徒は自分自身と引きつけながら考え、次第に新しい疑問をもつようになります。こうして生まれた問いは、生徒の興味・関心を高め、生徒が自分事として考えるための基盤を作ってくれます。

教材研究の例 (中学3年「がんばれ おまえ」)

教材研究メモ



2

生徒の発言を そのまま受け止める

自分の発言が曲解されたり、強く否定されたりすると、大人でも傷つきますよね。生徒ならなおさらです。なので私は、生徒の発言を無理にまとめたり、特定の考えに誘導したりしないように気を付けています。

気になる発言が出たときには、責めるように追及するのではなく、「もう少し教えて」と素直にきくと、生徒は自分の言葉で必死に伝えようとします。もしうまく表現できなくても、しっかりと考えてくれています。そして、自分の発言を大事にされたと感じた生徒は、さらに一生懸命に考えるようになっていきます。

つい言ってしまう例

- ・それってつまり、
○○ってことでしょ?
- ・やっぱり□□が大切だよ。
- ・それってどういうこと?
もっとみんながわかるように言って。

もっと寄り添うなら

- ・もう少し詳しく聞かせて。
- ・思っていること、そのままでもいいんだよ。
- ・なるほど、△△さんはそう思ったんだね。
みんなの意見も知りたいな。

3

「教える」のではなく 「いっしょに考える」

私は、「道徳の授業では、先生もいっしょに考えるし、時にはいっしょに悩むこともあるよ」と生徒に伝えていきます。道徳科で扱う内容は、答えがひとつに定まらないものばかりです。だからこそ悩むし、おもしろい。何か決まった答えがあると思っている生徒が多いからこそ、いっしょに議論する中で、考えを深めたり、新たな発見をしたりしたいのです。

時には、生徒を信じて、話し合いの進行などを任せてみることも。一生懸命考えたり、悩んだりしているときにこそ、生徒は輝きます!

「いっしょに考える」ための声かけ例

- ・まとまってなくてもいいから、
感じたことを話してみて。
- ・意見は変わっていいんだよ。
- ・これは悩むよね。だからこそいっしょに考えたいな。
- ・おおー、それは私も考えなかったな。
同じようなこと考えた人いる?
- ・うーん、そっか、それ以上は難しいね?
でも、めっちゃめっちゃいいヒントもらった感じ。
今の意見、みんなはどう思う?
- ・ちょっと待って、その意見おもしろい!
せっかくだから、そこをもう少しいっしょに
考えてみる?



1枚の写真から——必死だった「あの頃」を振り返って

岩手県盛岡市立厨川中学校指導教諭 及川仁美

あるとき、古いファイルから1枚の写真を見つけました。採用1年目、道德の研究授業のものです。教材は、黒柳徹子さんが父とのエピソードをつづった「父の言葉」。懐かしい！と目を細めた直後、そこに写っている授業風景に思わず苦笑いしてしまいました。



教壇から必死に語りかける私の表情とは対照的に、すっかり下を向いている生徒たち。板書は私が周到に準備した発問と答えでしっかり整えられていました。発問は全て短冊に書いた形で事前に用意され（中心発問はご丁寧にピンク色で!）、そこには、生徒の柔軟な意見が入り込むスキマは全くありませんでした。ルールから外れない授業をしようと必死だった若かりし自分。今の自分とはかけ離れたものを追いかけていたのだなあと感じました。

あの頃と今を比べてみると、いちばん違っているのは自分の立ち位置です。以前の私は、道德は教えるもの、指導するものという意識でガチガチでした。大きく考えが変わったのは、これまで出会った生徒たちに教えられたからです。生徒が豊かで輝くような表情を見せてくれるのは、教え込みの授業ではなく、たくさん悩み考え、他者と対話する中で生徒自身が気づき深めていく授業なんだと。「教師が生徒と共に創る授業」が生み出す学びこそが、これからの時代を力強くしなやかに生きる人になるための土台となることを。

それでも、あの頃の「守」りに徹していた自分がいたからこそ、それを「破」り、「離」れて成長した今があるのだとも思います。道草や紆余曲折は決してむだではありません。むしろ、栄養や引き出しとなって、その後の自分を支えてくれます。いろいろな方法や教材に（時には失敗しながら）挑戦する中で、自分のスタイルや大切にしたいことがきっと見えてくるはずです。目の前の大切な生徒たちとすてきな道德の時間を創っていけるように、共にがんばっていきましょう！



光村図書

教授用資料

発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)
イラスト 野本雄一郎
発行 2025年9月

光村図書ウェブサイト

光村図書 | Q

